

旭市 小さな拠点形成事業 基礎調査結果の要点

1. 人口に関すること

(1) 現状

- ・高齢者、特に 75 歳以上の大幅な増加と年少・生産年齢人口の大幅な減少。
- ・若年層(10～14 歳→15～19 歳→20～24 歳)の流出超過が多い。
- ・女性の若年層(20～24 歳→25～29 歳→30～34 歳)の転入が少ない。

(2) 課題・対応方向

- ・高齢者対策：予防医療・介護予防、元気な高齢者の活用、旭市版 C C R C の検討(別紙)。
- ・少子化対策：女性の若年層の流出抑制・流入促進(出戻り・新規流入)。

2. 医療・福祉に関すること

(1) 現状

- ・旭中央病院に外来患者が集中し、急性期医療・教育研究の機能が十分に発揮できない。
- ・地域医療の機能分化の基礎となる診療所(診療科)が、市内に十分に揃っていない。
- ・今後、要介護 1 の認定者数の大幅増加が見込まれ、介護予防の重要性がより高まる。

(2) 課題・対応方向

- ・旭中央病院と地域医療施設の機能分化。
- ・市をあげた実践による介護予防・健康づくり。

3. 農業に関すること

(1) 現状

- ・基幹産業：農業産出額は県内第 1 位、販売金額 1,000 万円以上の農家数 816 戸。
- ・水田は耕地面積の 66%を占めるが米の生産額(42 億円)は市全体の 10%。
- ・専業農家・基幹的農業従事者の比率は県平均を上回るが直近 10 年は減少傾向。
- ・大規模農家(3ha 以上)の比率は県平均を上回るが直近 10 年の増加率は県平均を下回る。

(2) 課題・対応方向

- ・儲かる農業の推進(生産性向上、大規模・法人化、6 次産業化、ブランド化)。
- ・道の駅との連携による農業(食・食育)を通した介護予防・健康づくり。

4. その他産業(商工業)に関すること

(1) 現状

- ・旭商圏は、H18 年調査から H24 年調査にかけて縮小(構成自治体数・吸引人口の減少)。
- ・製造業事業所数は減少したものの従業者数は微増、出荷額は大幅増加と順調に推移。
- ・出荷額・従業員数とも地域特性を反映し食料品産業が構成比でトップとなっている。

(2) 課題・対応方向

- ・道の駅を活かした交流人口の誘致と観光&農業振興。
- ・食と健康のブランド創出による食料品産業や医療・福祉関連産業の誘致。

※これらの課題・対応方向に対応するには、今般検討の「小さな拠点」は極めて有効であり、各主体の相互連携による相乗効果の発揮を図るには、旭中央病院と道の駅の周辺エリアが事業候補地として最適である。→小さな拠点の導入機能(役割)・施設の方向性は別紙ご参照

以上